

知的障害者の意思決定支援における支援者がとらえる実践上の課題

○福祉 太郎 (四谷大学) A 社会福祉士会 (00000)

I. 研究目的

知的障害者の意思決定支援については、障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドラインによって支援の流れが示されているが、意思決定支援の検討と実践は緒に就いたばかりであって、さまざまな見解が乱立した状態を整理する¹⁾ことが求められている。そこで、本研究では、知的障害者の意思決定支援を実践している相談支援専門員のインタビューに基づく語りから、支援者がとらえている実践上の課題を明らかにすることを目的とする。本研究の意義は、現在様々な領域で注目されている意思決定支援に関する研究であり、実践経験が豊富な支援者が行っている実践を言語化することによって、より質の高い支援を行うための示唆を得ることである。

II. 研究方法

データ収集は、相談支援専門員の資格を有し、実務経験年数が10年以上の条件を満たす支援者7人を対象に、筆者自身が作成したインタビューガイドを用い、半構造化インタビューを行った。対象者7人のうち社会福祉士の資格を有する者は4人であり、実務経験年数の平均は約23年であった。調査は2023年12月から2024年2月にかけて実施した。

分析は質的なデータを数値化し統計的に解析する方法であるテキストマイニングという手法を用いた。分析には、樋口が開発したソフトウェアであるKH Coder3.00 official-packageを使用した²⁾。テキストマイニングの手順は次のとおりである。第一に、半構造化面接によって得られた7人のインタビューデータについて逐語録を作成しテキストデータを作成した。第二に、作成されたテキストデータをソフトウェアに用いるため、1つのExcelデータに7人の分のインタビューデータを整えた。第三に、ExcelデータをテキストマイニングソフトウェアであるKH Coderにより読み込み分析を行った。

III. 倫理的配慮

本研究は、公益社団法人日本社会福祉士会の研究倫理規程、研究倫理ガイドラインを遵守して実施した。また、四谷大学研究倫理審査委員会の審査・承認を得た(承認番号:00-00)。調査対象者には、個人情報保護されること、参加は自由意志であり、参加を断っても不利益は生じないこと等、文書および口頭による説明を行い同意書に署名を得た。

IV. 結果(共起ネットワーク分析)

語句と語句の関連性を明らかにするために、共起ネットワークによる分析を行った。図1は、特徴語同士の共起関係をネットワーク図に示したものである。分析した結果、対象となった語(node)は36、線(edge)は30であった。そして、3語以上が共起する6つのカテゴリーが生成された(図1、表1)。本研究では抽出された結果を解釈するために、前後の文脈を一覧表示するKH CoderのKWICコンコードダンス機能²⁾を用いて語の類似性を踏まえグループ名をカテゴリーとして生成した。その結果、意思決定支援の実践上の課題として、6つのカテゴリーが抽出された。この6つのカテゴリーを課題ごとに分類すると、次の2つに整理できる(表1)。第一に、本人に関わる課題として、【A本人の思いを見極める難しさ】【B将来の生活を本人が決められるように支援すること】【C計画作成にとらわれ

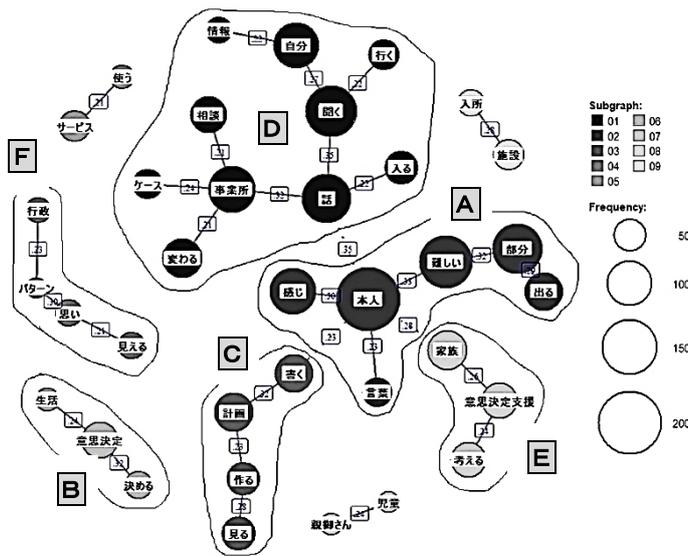


図1 支援者がとらえる意思決定支援の課題

【D事業所を訪問し、対話しながら関係を築いていくこと】【E 本人の意思決定支援を家族と一緒に考えること】【F 計画を作成して行政と調整すること】の3つが示された。第二に、本人をとりまく周囲の環境に関わる課題として、【D事業所を訪問し、対話しながら関係を築いていくこと】【E 本人の意思決定支援を家族と一緒に考えること】【F 計画を作成して行政と調整すること】の3つが示された。

V. 考察

支援者がとらえる意思決定支援の実践の課題は、知的障害者本人の意思を推定することの難しさと併せて、家族や事業所や行政といった周囲の環境からも影響を受ける難しさがあることが示された。そのような実践上の課題がある中、本研究の対象者である相談支援専門員は、意思決定支援を実践する時に「本人」を強く意識していることが示された。また、対象者全体に共通していた点として、家族・事業所・行政等の関係者と連絡調整を図り、良い関係性を意識していた。このように、本人の意思決定支援を進めていくうえでチームアプローチの視点を意識して実践していることが示唆された。

VI. 結論

本研究のインタビュー内容は、「意思決定支援の実践上の課題」「意思決定支援の困難性の原因及び対処」「意思決定支援で意識的に実践している取り組み」である。この収集したデータを分析した結果、知的障害者の意思決定支援の課題は、本人の意思を推定する難しさと、家族や事業所等の周囲の環境から影響を受ける難しさがあることが明らかとなった。そして支援者がこの課題に向き合い、①本人中心の考え方を強く意識していること、②チームアプローチを意識して本人をとりまく環境面との関係性を良好にすることを実践していることが示唆された。

参考文献：

- 1) 中島由宇「知的障碍福祉における意思決定支援を捉える視座」『東海大学紀要文化社会学部』6, 2021年, 51-74 ページ.
- 2) 樋口耕一・中村康則・周景龍『KH Coder OFFICIAL BOOK II 動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニングフリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析-』ナカニシヤ出版, 2022年.

本記入例は、本人の了承を得て過去の発表要旨原稿記載内容を掲載しています。

表1 共起ネットワーク分析結果のカテゴリー

課題の分類	カテゴリー
本人に関わる課題	A 【本人の思いを見極める難しさ】
	B 【将来の生活を、本人が決められるように支援すること】
	C 【計画作成にとらわれないこと】
周囲の環境に関わる課題	D 【事業所を訪問し、対話しながら関係を築いていくこと】
	E 【本人の意思決定支援を家族と一緒に考えること】
	F 【計画を作成して行政と調整すること】